

平成28年6月26日

国際医療福祉大学

土屋文人先生

拝啓

時下、ますますご清栄のことと、お喜び申し上げます。

このたびは、「くすりリスク」のご講義、ありがとうございました。

仙台でウェブ受講しております、ジャーナリズム分野M2の大竹と申します。東北大学病院で医療ソーシャルワーカーをしております。

薬事法の改正や薬剤師の業務に関する具体的内容について学ぶことができ、大変勉強になりました。

特に、調剤薬局と病院で薬剤師の給料がかなり違う（病院薬剤師の給料が安い）ということが驚きでした。院内にも、友人にも薬剤師がおり、そんな話も聞いたことはあるのですが、そこまで違うとは！！

にもかかわらず、先生が学生に対して「だまされたと思ってまず病院で数年やってみなさい。それから在宅だ。」と指導されていることに感銘を受けました。

退院支援業務においても、同様のことが言えるなぁと思ったからです。

給料のことは何とも言えませんが、ソーシャルワーカーも看護師も、病院で仕事をしてみると退院支援や地域連携の重要性や難しさを感じることができるので、病院経験をしてから在宅（医師会や在宅療養支援診療所、訪問看護ステーションなど）に移っていくというキャリアパス（案）も提案されているところです。

最近、調剤薬局とやりとりすることが増えてきました。小児でも中心静脈栄養等の医療的ケアや終末期医療を在宅で行う場合、混注が必要な点滴のお薬を「クリーンベンチ」という設備がある調剤薬局を探して、自宅まで届けてもらえる「訪問薬剤管理指導」をお願いするというケースです。

当院では主に退院調整看護師が「探す」のですが、某こども病院では（当たり前かもしれませんが）院内の薬剤師がそういう調剤薬局の情報をもって教えてくれると聞き、同じ病院薬剤師でもいろいろだなぁと思っていたところでした。

お薬手帳に関する素朴な疑問があります。今年4月の診療報酬改定で、お薬手帳を忘れた場合自己負担が増えるということで、自分が利用している薬局でも文書による説明用紙をもらいました。それによると、3割負担でも数10円高くなるだけ、ということでした。お薬手帳を必ず持参してほしいという意図でそういうペナルティを課すならば、もう少し高くした方が良いのではないかと思いますので、いかがでしょうか？



つちや ふみと
土屋 文人

東京医科歯科大学歯学部附属病院薬剤部長。
1977年東京大学薬学部卒業。
同年東京大学医学部附属病院薬剤部助手。
1994年帝京大学医学部附属市原病院薬剤部長。
2001年より現職。
日本人間工学会認定人間工学専門家。
日本医療情報学会認定医療情報技術育成指導者
主な役職/日本病院薬剤師会常務理事、
日本薬剤師会副会長、
医療の質・安全学会理事
主な所属学会/日本医療情報学会、
日本人間工学会、日本薬学会、
医療の質・安全学会

【厚生労働省研究関連】

- ・「薬事・食品衛生審議会医薬品等安全対策部会安全対策調査会」委員
- ・医薬品・医療機器等レギュラトリーサイエンス総合研究事業「特殊な包装形態の医療用医薬品へのバーコードの表示方法等に関する研究」
- ・「処方せんの記載方法に関する医療安全対策の検討」 研究班「内服薬処方せんの記載方法の在り方に関する検討会」

ご講義の最後に、お薬手帳は極めて情報保護性の高い個人情報であり、「落としたら大変」、「患者さんのものであり、お願いして『見せていただく』もの」というお話もありましたが、高齢者や障害者など自己管理が困難な場合は多少なりともサポートが必要と思われます。

だれが、どのようにサポートすべきか、考えてしまいました。先生はどのようにお考えですか？

VODで視聴した際、先生のお顔がはっきり見えず、講義資料のタイトルスライドに掲載されている似顔絵？（イラスト）と比較することができなかったので、ウェブ検索してみたところ、以下のお写真を発見しました！

余談ですが、ご略歴に書かれている「認定人間工学専門家」と薬剤師、どのような関連があるのでしょうか・・・。

ちょっと気になりました。

このたびは大変「歯切れの良い」ご講義をありがとうございました。

まずは、略儀ながら書中をもってお礼申し上げます。

敬具